

令和7年度長崎県学力調査
＜壱岐市の結果の概要＞

1 目 的

本県独自の学力調査を実施することにより、児童生徒の学力の定着状況を把握・分析し、各学校における児童生徒への教育指導の充実や改善等に役立てるとともに、県及び市町の教育施策の成果と課題を検証して学力向上対策の一層の充実を図る。

2 実施対象

- 小学校調査・・・第5学年（国語、算数）
- 中学校調査・・・第2学年（国語、数学）、第3学年（英語）

3 実施日

令和7年4月17日及び4月18日

4 結果の状況

校種 学年	教科	平均正答率		成果・課題（成果は○、課題は●）
		壱岐市	長崎県	
小学校 第5学年	国語	62.6	60.1	○ 「書くこと」「読むこと」の領域において、県平均を上回っている。 ○ 県の重点課題である「条件に合わせて書く」ことについては、県平均を大きく上回っている。 ○ 県の重点課題である「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く」ことについては、県の平均を上回っている。 ● 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題が見られる。
	算数	69.1	67.0	○ 「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」全ての領域において県平均を上回っている。 ○ 特に、「データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断する」ことにおいては、県平均を上回っている。 ○ 県の重点課題である「図形（平面図形・立体）の性質を理解し、面積・体積の求め方を考える」ことについては、県平均を上回っている。 ● 「変化と関係」において、数量の関係を□と○を用いて式に表すことに課題が見られる。

校種 学年	教科	平均正答率		成果・課題（成果は○、課題は●）
		壱岐市	長崎県	
中学校 第2学年	国語	60.6	63.1	○ 「話すこと・聞くこと」の領域において、「事実と意見との関係に注目して話を構成する」は、県平均を上回っている。 ● 「書くこと」「読むこと」について、県平均を下回っている。 ● 県の重点課題である「話の展開を捉え、条件に合わせて書く」ことについては、市においても課題が見られる。
	数学	45.3	48.4	○ 「数と式」の「具体的な場面と関連付けて考察し表現する」ことは、正答率も高く、県平均を上回っている。 ● 「数と式」「図形」「関数」「データの活用」において県平均を下回っている。 ● 県の重点課題である「データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する」は、市においても課題が見られる。
中学校 第3学年	英語	42.5	48.8	○ 自然な口調で話される日常的な話題について対話を聞き、情報を正確に聞き取ることについては、県平均を上回っている。 ● 「読むこと」「書くこと」の領域が、県平均を下回っており、改善が必要である。 ● 県が重点課題として示す「目的に応じて、自分の考えを英語で書く」については、正答率が低く、県平均も大きく下回っている。また、県と比べて無答率も高い。